《入選》

# パラリンピックを見て

城南小学校　４年
林（はやし）　義仁（よしと）　さん

ぼくは、パラリンピックのビデオを見て、足が無い人や手の無い人、いろいろな部分が不自由なしょう害をもった人が、希望をもってがんばっていてすごいなと思ったし、がんばっている姿に感動しました。そして、とてもおどろきました。それは、手や足が無いのに、手や足がある人と同じように、いや、それ以上に早く走ったり、泳いだりしていたところです。うまれつきしょう害をもっていたり、いきなりしょう害をもってしまったり、いろいろな理由があると思いますが、しょう害者だからといって、悲しむばかりじゃなくて、ゆめや希望にむかってど力しているパラリンピックの選手達は本当にすごいと思いました。

ぼくが、ようちえんの時に、大阪のさかいにひっこしたことがあって、そのようちえんは、しょう害がある人もいるようちえんだったのですが、その中で両手がない子がクラスにいました。その子は、いつもヘルメットをかぶっていて、かたから先がなかったので、最初見た時はおどろきました。ごはんを食べる時は足で食べていて、絵や字を書く時は、足や口を使って上手に書いていました。一人で何でもできてすごいなと思いましたが、何だかかわいそうに思えてまわりの人が手伝ってあげたらいいのにと最初は思っていました。でも、先生やまわりの大人達が、その子が大人になった時のために、一人で何でもできるように、見守っているんだよと教えてくれて、それはとても大切なことだけどとてもむずかしいことだと思いました。何でも一人でできるようになるには、ぼく達手のある子よりも何倍も何十倍もど力して、できるようになったんだと思います。その姿を見守る親もすぐに手をかしてあげるんじゃなくて、できるようになるまで見守ることは、とても大切だったと思います。

ぼくには、両手両足があって、不自由なところはありません。それなのに、しょう害をもっている人のようにど力をしていないし、がんばってもいません。そんな自分がとてもちっぽけだと思うし、とてもはずかしいと思いました。

パラリンピックの選手がゆめや希望にむかってたくさんど力したように、ぼくもがんばってゆめのためにど力していきたいと思います。ゆめをかなえるためのど力は、しょう害がある人も無い人も関けいなくできることなので、ぼくもむねをはって、がんばっていると言えるような人になりたいと思いました。

このビデオを見て、ど力はとても大切なことだと分かりました。